

KSKQ 京橋 おかげさま 通心 17

『はたらく』きょうばし 2021年 加光『くらす』
就労移行支援事業所 8月 生活訓練施設

地域公益活動 正真会の原点 人と地域社会の在るべき姿

当法人では地域公益事業「地域がつながる“わ”プロジェクト」を主催しています。この取り組みは、京橋地域や近隣地域にある多様な社会課題の解決を目指した取り組みで、地域の様々な人々と協力・協働しながら展開しています。

なぜ正真会が地域公益事業と称して、様々な取り組みを行おうとしているのか。その原点となる答えはいたってシンプルです。それは――

「人と地域社会の在るべき姿を生み出すために必要だから」

正真会は2002年の法人設立以来、病や障害といった社会的困難を抱えた方々を支援してきました。それはある意味では、社会的困難という大きな問題が発現した後に、その方を支援するという「待ちの姿勢」だったと言えます。川の流れるに例えようと、幾つもの問題が川の下流に流れ着くのを待って対処している様な状態ですから、これではいつまでたっても人の“生き辛さ”が無くならないと考えました。

「もっと川の上流にある孤独や貧困などの根源的な課題に対して働きかけなければ…」繰り返される“生き辛さ”の再生産をみんなのチカラで止めるため、そして、誰もが活躍できる地域社会を創る為に、2017年から私たちは新たな一歩を踏み出しました。そうして今、正真会は地域の多様な人財や団体・企業とネットワークしながら「街づくり」「人との繋がり」「防災」「教育」など多岐にわたるテーマに取り組んで、「人と地域社会の在るべき姿」の実現に突き進んでいるのです。



梅雨空が明けたと思えばすぐに猛暑の夏。今号がお手元に届く頃には、東京オリンピックも閉会し、パラリンピックの開会直前といった頃合いでしょうか。思い返せば2013年9月の「おもてなしプレゼン」に日本中が沸いた時、まさかこのような騒々しい形で開催を迎えるとは、誰にも予想できなかったことでしょう。

一日が過ぎるのはホントに早く、毎日がジェットコースターのように。自分史上の最高速で走っていると、まるでハイスピードカメラで撮影された映像のように、情景はスローモーションでより鮮明になりますね。大阪に来て20年が過ぎました。ハンサムだったあの頃と同じ速度で時間が過ぎていくとしても、その濃度と熱量を高めて、この暑い夏を、誰も予測できない未来に向けて進んでいこうと思います。

管理者 寺村 肇

過去の歩みが、現在の光景に

ジタバタしてもしゃあない

実を結ぶ計画性や実行力の乏しさがそこそこに見て取れます。数年前の自分なら、今あることに躍起になって汗を流し、いわゆる「やってみよう」を醸し出して気を紛らわせたり、目の前の事に苛立ち・落ち込み・悩んでいるフリを決め込んで現実逃避にふけったりしていた事でしょう。

手前味噌ですが、人って少しずつ成長するもんなのです。過去の出来事と今日の前にある事の因果関係が捉えられるようになってきて、いい意味で「今、ジタバタしてもしゃあないやん。」と前向きでいられる自分があります。

お世話になった皆さんの応援やご協力によって成長させて頂いたと本当に感謝しています。

一九九九年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(二)三三・四五六七八の日発行 定価五十円

正真会オープンキャンパス

正真会の良さを知る絶好の機会に **Let's Go!**
「働き」と「暮らし」を深める場所

正真会オープンキャンパスは、きょうばし・加光の見学会を合体させた企画となります。「働き」と「暮らし」を一体的に支援する」という、正真会の良さを皆様へ存分に知っていただける絶好の機会となっております。「働き」を支える「暮らし」があり、「暮らし」を彩るための「働き」がある。切っても切り離せない2つのテーマを一度に挑戦できる環境が、正真会にはあります。ぜひ、あなたも『正真会オープンキャンパス』にご参加下さいませ！

午前10:00~11:30
(詳細、お申込はWebで)
www.syoushinkai.com
「正真会のできごと」をご覧ください。

今月は 8月12日、8月26日

イベント情報

地域がつながる「わ」プロジェクト 9/11 Sat
社会福祉法人 正真会

6月は環境月間 都島区まちづくりセンター合同企画
川の博士と一緒に学ぼう！作ろう！
～世界に一つのヨシ筆づくり体験～

1日で作れるヨシ筆づくり体験です。
1.ヨシの採取・選別
2.ヨシの乾燥
3.ヨシの束ね
4.ヨシの編み
5.ヨシの仕上げ
6.ヨシの乾燥
7.ヨシの束ね
8.ヨシの編み
9.ヨシの仕上げ
10.ヨシの乾燥

川崎 秀一さん
川崎 秀一さん
川崎 秀一さん

2021年9月11日(土)
14:00~16:00
500円
15歳以上

作品を持ち帰るための袋
9月10日(金) 10:00~12:00 都島区まちづくりセンター
10月1日(土) 10:00~12:00 都島区まちづくりセンター

法人理念

誰もが人として暮らし、人としての喜びを感じられる社会を創造します。人の歩みを共に喜び、共に学び続けます。

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 8 働きがいも経済成長も

正真会 はSDGsの項目で次の持続可能な開発目標を掲げています

■編集人■(毎月発行)
〒534-0024 大阪市都島区東野田町5-5-16
京橋おかげさま通心 編集委員会
電話 06-6351-8668

■制作・協力■
NPO法人 チャレンジステージ
HP: www.challesta.com

■発行人■
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

◆我が人生54年を振り返ってみますと、挫折が1回、あとは数えきれないほど壁にぶち当たったり、転倒したり、穴に落ちたり。挫折時には、あまりのショックに海外への失踪を考えたりもしました。そんな中でも唯一諦めることは、すぐに次のワクワクを見つつけ、起き上がってきたことでしょうか。単純なかもしれませんが、今でも挫折時の壁は心に刺さったままですが、それは私の原動力であると共に、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないための貴重なものとして受け止めています。実は最近もある分野で積み上げてきたことが一瞬にして崩れ去り、ショックのあまり笑ってしまいました。できなかったことを悔やみましたが、また一つずつ積み上げていくことを誓いました。できなかったことができたように、今もチャレンジだとなれば、私は今後も失敗を恐れず、そのステージを創出し続け、関わる皆が健やかな現在と未来へつながるよう尽力してまいります。

ひと 京橋の「魅力びと」紹介 桜宮校下青少年福祉委員会 会長 長谷川新氏

阪神大震災の後からこの地域に入りました。言うなれば「よそ者」の立場なのですが、高校時代の友達なんかを見てみても「良い地域なんだろうな」というのは前から薄々感じていました。実際住んでみて、地域の結束力や絆のようなものがしっかりとあり、住みやすく心地よい場所だと感じます。ただ、地域の力が強いだけに、やはりどこか「よそ者」が入りにくいという面もあるのかもしれない。今後は、多様な包容力みたいなものが出てきて、良いんじゃないかなと思っています。

そのよそ者の話に聞かされて、古いものと新しいものが混ざる時というのは、全体が調和する事は何かと難しいですね。私は青少年福祉委員としてちょうど変化の大きな世代の真ん中にあるように、上の人たちが今の時流に合っていないなと思う事もあれば、下の人たちが効率的過ぎて情に欠けているなと思う事もあります。これはどの時代や社会でも起こっている事で、地域の価値観が自

古さと新しさ ~チャンスをお届けする存在に~

然に循環するのを待つしかない気がします。循環という話ですと、私の本業の目標地点は「税金を生み出し、福祉分野に回す事」にあります。ベンチャー企業のバックアップに特化して支援し、お金儲けをキチンとする企業、そして人を創っています。この私の方針は、二人目の子供が重度の身体障害があった事に関係しています。働かなくても働けないような障害者の為には、理念だけでなく資本が必要です。

私はこれまでチャンスを探ってきた人生なので、これからはチャンスをお届けする存在になりたいと考えています。うまくいかない事もこれからの山あるでしょうが、私はこれまでも壁に当たった時は「何くそ！今に見ておれー！」と奮い立たせてきました。そういった気概が、これからの時代もますます大事だと思います。

株式会社アンシャントマン様 企業見学会

就労移行支援事業所 きょうばし

マンガ×ブランディング

https://www.mangaculture.com/

百折不撓のチャレンジ精神

◆我が人生54年を振り返ってみますと、挫折が1回、あとは数えきれないほど壁にぶち当たったり、転倒したり、穴に落ちたり。挫折時には、あまりのショックに海外への失踪を考えたりもしました。そんな中でも唯一諦めることは、すぐに次のワクワクを見つつけ、起き上がってきたことでしょうか。単純なかもしれませんが、今でも挫折時の壁は心に刺さったままですが、それは私の原動力であると共に、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないための貴重なものとして受け止めています。実は最近もある分野で積み上げてきたことが一瞬にして崩れ去り、ショックのあまり笑ってしまいました。できなかったことを悔やみましたが、また一つずつ積み上げていくことを誓いました。できなかったことができたように、今もチャレンジだとなれば、私は今後も失敗を恐れず、そのステージを創出し続け、関わる皆が健やかな現在と未来へつながるよう尽力してまいります。

チャレステコラム

NPO法人 チャレンジステージ 代表理事 山下 勇雄

大阪市旭区 西川種子店 様



霜氏の過去・現在・未来のお話にて、各自自分と重ね合わせ、気づきや学びを得ました



店先には収穫したての枝豆や淡路島産の良質な玉葱などが盛りだくさんに並んでいました



霜氏 講話
「しほんだお花を取り除く作業、収穫された玉ねぎの皮を剥いたり根の部分を削いだり、真剣に集中して行ないます。ひとつひとつ丁寧に行ないました」

生活訓練施設「加光」にて備品の管理、施設内の清掃を担当しています。もともと飲食店のサービススタッフとして働いていましたが、コロナ禍の影響で業務終了となり、さらには子供が支援学校へ進むタイミングもありまして、求人目も留まりませんでした。子供の将来がどうなっていくのか、知ることができるかもしれないし、自分の子育てを通して得られた経験を活用できるかもしれない、という想いもありまして、このお仕事に就こうと決めました。今後はもっと利用者さんと楽しく雑談をして、「あの人としゃべるの楽しいわ」と打ち解けていただけたら嬉しいですね。会話は活力の源です。人間関係も心地よい環境を保つようにして、それが少しでも利用者さんの自立のお役に立つことができればいいなあと思っています。今は子供3人の生活に時間を費やしていますが、落ち着いたら支援職に携わることがいいかもしれないと考えています。こちらの利用者さんにも子供達も社会に出たら日々楽しく過ごせて、交流もできて——そんな日を夢見ながら、皆さんと接しています。



野菜の種が入った袋の仕分け作業。みんなで手分けをして取り組みました



最後は晴れやかに記念撮影タイム

企業見学会

触れる・感じる体験

商品から平和を届ける

7月15日、みや澤グループ 代表取締役 役員長 宮澤裕之氏のご紹介により、大阪市旭区の西川種子店様で企業見学会が開催されました。梅雨の終盤、早朝の雷雨は衝撃的でしたが、開催時には何事も無かったかのように青々と晴れ渡りました。初めの自己紹介を経て、代表の霜氏より事業の紹介がありました。最初に就職した設計会社でのエピソードでは、「朝から晩まで働き、残業も当たり前」「夢や目標が無いまま、目先のお金を追う毎日だった」と振り返られる霜氏。その後現在の稼業を継がれる事になりますが、厳しい現場で叱られていた経験が糧になったと話されています。

「きょうばし」に戻った後の振り返りでは、霜氏のお話にあった、「農家や流通の本質、仕事に対する姿勢」についてのテーマから幅広く意見交換を行ない、その中でも「商品を見るだけでなく、世に平和を届ける」という想いに参加者一同、改めて感銘を受けました。また、利用者さんからは「霜さんが18歳の時に働いていたイメージがなかった」とおっしゃって安心しました。「自分のこれまでの考え方と行動を改めるきっかけになりました」といった意義のある感想もたらされました。お忙しい中、「触れる・感じる」の豊かで貴重な機会を頂き、本当に有難うございました。

「きょうばし」サービス管理責任者 寺村 肇
振り返りでは非常に沢山のテーマについて話し合いました。「小売店と量販店の違いは?」「代々続く信頼と実績がお客様と繋がる原動力となる」「お客様が種を大切に育てて収穫した野菜は美味しい。そういうメッセージを届けられる霜さんのような存在が増えたら世界に笑顔が広がる」「仕事はモノを売るだけではなく、平和を生むことができるんやね」等々。霜さんの温かい人柄や丁寧な仕事ぶりを肌で感じる、非常に内容の濃い時間を頂きました。

職員感想

「どうしたら仕事が面白くなるのか・楽しくなるのか」という視点の大切さを学ばせていただきました。もちろんやらなくてはならない事、目の前の仕事も大事ですが、それだけでは中長期的な見通しを得るのは困難です。「楽しさ」と「やるべき事」のバランスよく考えて仕事を続けていって、ビジョンを得るという方法を今後実践していきたいと思えます。

「加光」生活支援員 荻田 拓也

★次回開催★株式会社アンシャントマン 様 <https://www.mangaculture.com/>

Thymeのキーコンセプトは「学ぶ・楽しむ・伝える」3つ。



7月、夜の社会見学・堺港ナイトクルーズに行ってきました。船に乗って夜の海に出るという日常では体験できないロケーションに大盛り上がりでした!



8/27(金)「はたらくについて考える会」の準備を予定しています!



西川種子店 代表 霜 典考氏

「仕事とは? 働くとは?」

「切り替え」と「振り返り」の繰り返しにより生まれる成長

仕事というのは「切り替え」と「振り返り」の意識が大事だと思います。仕事は自分が失敗をしても止まる事なく流れ続けます。前へ進み続けなければなりません。その時に不可欠となるのが「切り替え」で、とにかく自分の役割に集中する事が重要です。ただ、失敗や叱られた事は切り替えによって忘れるのではなく、家に帰るなり休日なり、ある一定の落ち着いた段階で「振り返り」をして次回に活かそうと努力する必要があります。前へ進み続けながらも、少し立ち止まって歩いてきた道を振り返ってみて、そしてまた前へ進む。その繰り返しの繰り返しにより、人は仕事を通じて成長をしていくのだと思います。

スタッフ紹介



入職時期 2021・6
名前 上野 理恵子
担当部署 事務/支援員

人間関係も空間もキレイに 楽しく心地よい環境づくりへ

生活訓練施設「加光」にて備品の管理、施設内の清掃を担当しています。もともと飲食店のサービススタッフとして働いていましたが、コロナ禍の影響で業務終了となり、さらには子供が支援学校へ進むタイミングもありまして、求人目も留まりませんでした。子供の将来がどうなっていくのか、知ることができるかもしれないし、自分の子育てを通して得られた経験を活用できるかもしれない、という想いもありまして、このお仕事に就こうと決めました。今後はもっと利用者さんと楽しく雑談をして、「あの人としゃべるの楽しいわ」と打ち解けていただけたら嬉しいですね。会話は活力の源です。人間関係も心地よい環境を保つようにして、それが少しでも利用者さんの自立のお役に立つことができればいいなあと思っています。今は子供3人の生活に時間を費やしていますが、落ち着いたら支援職に携わることがいいかもしれないと考えています。こちらの利用者さんにも子供達も社会に出たら日々楽しく過ごせて、交流もできて——そんな日を夢見ながら、皆さんと接しています。



「加光」生活支援員 赤嶺 英俊

上野さんは職員に対して声掛けをしてくれたり、雑談で場を明るくしてくれたり、ホントに気遣いの方です。掃除もしっかりしていただいているので、すごく助かっています。これからもよろしくお願ひ致します。

連載 トライアル雇用奮闘記 第4回

利用者紹介 Fさん

人のチカラの大きさ — 多様な人財の内包社会へ —

「きょうばし」サービス管理責任者 寺村 肇

今回は、支援者の立場からFさんの奮闘を追ってみたいと思います。最初にFさんが加光を利用し始めた頃の印象は、高校・大学・大学院と高学歴でしたし、若さもあってか、少し「とがった」印象がありましたね。それは冗談半分の表現なのですが、まったく的外れとも言い切れない所がありまして、いわゆる「優等生タイプ」、真面目に頑張りすぎて自分を大切にすることを忘れてしまう傾向があったと思います。

その後、Fさんは2度の就労を経て、きょうばしに戻ります。その頃になると、以前とは違って「自分に目が向いている」という感じがひしひしと伝わってきました。自分自身の性格傾向、思考のパターンなど単に病気や障害という言葉で

はくれない幾つものテーマと向き合う就労経験を積んだので、自己理解が相当に深まったのだと思います。理想と現実の狭間で心身の疲労を溜め込んでいる様子もはっきりと分かりました。それから約1年間、悩みの続く停滞の時期となりました。

そうした状況で、Fさんは活路を拓こうと企業見学会に参加します。誠幸運輸さんで社長や社員の皆さんのお話を聞くにつれ、Fさんの目に力強い生気が宿りました。支援者として彼の良さを引き出すには、仕事量や時間の配慮よりも、人のチカラが必要だと感じていましたので、その後誠幸運輸さんから実習の機会を頂いた事は千載一遇の機会になると確信しました。

Fさんという存在を受け入れて下さった事は、単なる障害者雇用ではなく、「多様な人財の内包社会」の実現へ向けた強烈なインパクトがあると信じています。今後、誠幸運輸さんと私たちの協働を広く内外に発信することで、その価値をしっかりと示していけたらと思います。



みや澤様での見学会で出し巻き作りを体験



率先してイベントのボランティア参加



大源味噌様での見学会で積極的に質問



誠幸運輸倉庫様での実習振り返り。澤田社長と山口氏からアドバイス頂きました

特定非営利活動法人ウィズ 地域生活支援センター ふらっとめいじ

<https://www.flatmeiji.com/>

出会えてよかったと思ってもらえる相談員に

— 関わり、繋がり —



相談支援事業 管理者 伊吹 智文氏
主任相談支援専門員

地域生活支援センター「ふらっとめいじ」様は、「大阪市在住の精神のご病気をお持ちの方が、困った時、不安な時、誰かと話したい時などに日中を過ごせる場所」として運営を行ってられます。そこには「利用者同士が支え合える仲間になってもらいたい、障がいのある人が自分の意思の尊重と自己決定を行いながら自分らしく、そして市民として社会参加して欲しい」という想いがあるそうです。今回取材を受けていただいた伊吹氏は8年前から相談支

援専門員に従事。「①お金②日中活動の場③通院・医療」という3本の土台を基軸として活動を展開されています。そこでは自身の知らなかった様々な諸相があり、人との関わりで学ぶ事がとても多いと話されます。利用者に関わる事は、その人の人生に関わっていく事と同じと考え、「この相談員に出会えてよかったな」と思ってもらえる事を大切にされています。また長期入院患者の方の地域移行の仕事もされており、そういった方達が地域生活を続けていける事が、自身の喜びとやりがいとなっていると話されました。

関係機関・支援者・職員、そうした人との関わり、そして利用者同士の繋がりが。これらの重要性を改めて学ばせていただく機会となりました。

荻田 拓也が行く!

インタビュー

生活訓練施設「加光」生活支援員 荻田 拓也

challenge 加光 since 2002

関係機関様の「魅力びと」紹介